

読者のページ

僕たち私たちの声

勝った方がうれしい

加藤 絢稀(6年)

◇サッカーのワールドカップ(W杯)ロシア大会が開きされた。1次リーグのポーランド戦で、日本は1点リードされていたが、予選と破のため終盤にパスを回して時間かせぎをした。そのことで、国内外で批判の声が上がった。

◇ぼくは、守りにてっするのではなく、せめてほしかった。決勝トーナメントのことを考えて戦うのはいいと思う。でも、フェアプレーポイントにたよらず、最後まで戦ってほしかった。

熱い思いが伝わった

杉浦 真羽(6年)

◇守りにてっする判断は、合っていたと思う。もし、イエローカードやレッドカードが出て、そこで敗退になってしまうより、試合では負けても決勝トーナメントに進出する方が、日本代表にとっても私たちにとっても、喜ばしいことだと思う。

◇第一の理由は、得点してポーランドに勝ちたいという思いもあったんだろうが、結果として守る判断を下したことによって進むことができたから。第二の理由は、決勝トーナメント進出にかけてきた

た日本代表の、熱く激しい思いが、テレビから伝わってきたから。

◇最後までせめてほしかった、という意見もあるかもしれない。しかし、これまでたくさん練習をしてきて、がんばって出した日本代表の成果なので、そこはしっかりと認めてあげ、これはこれで良い試合だったなあ、と思うべきではないだろうか。

◇結果はどうであらうと、日本代表のがんばりや、今までの努力を受け入れてあげること、意味があるのではないのかと私は考える。

サッカーW杯はいい思い出(上)

杵築市護江小

一生けん命な試合を

篠田なつき(6年)

◇私は、最後までこうげきに行っていたと思う。勝つことだけを気にしては、いけないのではないだろうか。

◇一つ目の理由は、スポーツは本来、勝ち負けを気にするものではないと思うから。一生けん命に戦い、すつきりした気分で終わるのが良い試合だと思う。

◇勝ってもあまりうれしくない試合は、見てもやってもつまらないのではないだろうか。私は、勝っても負けても、見ている人や選手が精いっぱいがんばって必死にプレーしてきた、と思えるプレーをすることが大事だと思う。

守りも一つの戦略だ

菊地沙果恵(6年)

◇私は、守りも一つの戦略だと思う。だから、スポーツのルールにのっとっているなら守り続けても良い、というのが私の意見だ。

◇第一の理由は、ルールはルールで、絶対守らなければならぬものなので、別にボールを保持していれば、パスを回し続けても良いと思うから。せめて行って逆に点を取られたら、元も子もない。

◇第二の理由は、ポーランドに0対1で負けていたとしても、フェアプレーポイントで勝っているなら、勝ち負けは勝ちだと思っただけ。新聞にも「順位決定規定でセネガルを上回った」とのっていた。

◇日本代表もがんばっているのに、「後味が悪い」とか、「スカッとなる試合が見たい」とか、文句をつけるのはおかしいのではないだろうか。今回の日本代表の動きも戦略なので良いと思う。

せめた方が良かった

中山 剛心(6年)

◇ぼくは、最後まで積極的にならなかつた。理由は、そうしていれば、プレーンを受けなかつたと思うからだ。もし、セネガルが1点を取っていたら、国外はもちろん国内からも、プレーンを取られたのではないだろうか。プレーンが、いやな気持ちになる。それならせめた方がいいと思う。

◇また、セネガルが1点でも取って日本が負けていたら、選手の気持ちもよもよとするのではないだろうか。それなら、せめて負けても「できることはやった」というふうに、スカッとした気持ちになつた方がいいと思う。

次に進んだ事実大切

安部 愛音(6年)

◇日本が守りにてっすることに対して私は、それも一つのルールだし、せめてこんでイエローカードを出されたら、決勝トーナメントに出られなかつたので、これで良かったと思う。

◇第一の理由は、目の前の試合より一つ先のことを考え、かんとくはこの手段を取ったのだと思うから。第一の理由は、長友祐都選手も「なかなか難しい状況で、サポーターの反応も難しい試合だったが、最終的なぼくたちの目標は前に進むこと」と言っていたからだ。やっぱり、今の試合より次の試合に進むことの選たくの方が良かった

◇せめて点を取られたり、警告を受けてフェアプレーポイントが減ったりしたら、次の試合はなくなっていたかもしれない。そう考えると、いい判断だったのではないだろうか。

◇最後までせめた方が、日本らしかったかもしれない。しかし、ベルギー戦まで進んだことはうれしいことであり、すごいことだから、私は進んだという事実を大切にしたい。

みんなの声待っています

1人400字程度にまとめて学校単位、または個人ごとにお送りください。添削させていただきます。原稿は未発

表のものに限ります。他紙や他欄との一重投稿は遠慮ください。掲載者は記念品を送ります。

宛先は、〒870-8605、大分市府内町3の9の15、大分合同新聞社

編集局読者センター「僕たち私たちの声」係。ファクスは097-5338-9677。大分合同新聞社のホームページ「Gate」からでも投稿できます。

